

(ディレクトフォース)

初日、私が訪ねさせていただいたのは日本有数の大企業・三菱商事である。東京丸ノ内に建つ本社ビルは、その優秀さを表すかのごとき佇まいだったことを覚えている。そして私たち二高生は、忙しいなか今日のために開けていただいた会議室へと通された。

三菱商事、と聞けば非常に規模の大きな商社であることは知っていた。事前に調べれば予想の上を行く規模であった。しかし、そのような知識としてしか私には存在していない雲の上の存在で、想像に難かった。

会議室での社員の方々によるプレゼンテーションを拝聴し、私の中にあつた三菱商事のイメージが大きく変わった。優秀な方々が集まりその能力を生かして真剣にただ黙々と仕事をこなしている、というのがそれまでのイメージだったが、今は違う。プレゼンテーションをされた社員の方々は、皆楽しそうに口許に笑みを湛え、仕事や自分について語っていたのだ。それだけで十分に、ここがどの様な雰囲気なのか理解できた。だから、三菱商事は世界をまたにかけける企業なのだと悟った。

プレゼンテーションの後は、社員の方々との交流の時間だった。今の私には分からない豊富な経験に裏付けされたなにかに触れようと、私はそれに臨んだ。私が学んだことは大きく二つある。自分とそれ以外の人とは必ずなにか価値観の違いがある。それがどうしようもないことは、私の短い人生のなかでも学んでいた。それをどうして人と接していけばいいのか。答えのひとつは、互いに相手を尊重しあい大切にすること、である。言葉にすれば容易いが、その真の意味は深い。言葉は矢、相手を容易に傷付けてしまう。そして、人間は刺してはいけないタブーを内包している。ならば、そのタブーに触れなければいいのか。それも正確ではない。本当に人と向き合うのなら、言葉の矢は自分に向けるのだ。これこそが答えの真意であると、私はお話を聞きながら感じた。相手の本質を考え、人を攻撃しないで自分で受けること。人と接していく上で非常に重要なことだと思う。これが私が学んだことのひとつだ。

もうひとつ、三菱商事に学んだこと。それは「スマイル」である。どんなときにあつても、スマイルさえ忘れなければすべてうまく行く。個人として、集団として、気持ちが沈みどん底にあつても、そんなときこそスマイルをより心掛ける。そうすれば、気持ちも晴れて、なにか道が開けるといふのだ。私自身、笑顔は多くないと思っている。それから、スマイルを心掛けてみたところ心なしか周りの反応がよくなった気がしている。「笑う門には福来る」と言われるが、まさにその事だろう。私はこれからも「スマイル」を忘れないでいきたい。

これらふたつが、学んだ大きなものだ。他にも学ぶべきことはあつたのだろう。しかし、一度に学べることは限られている。あまり欲張りすぎるのはいけないだろう。今回、お話しさせていただいた二名の方は、それぞれひとつずつ重点を置いて、語っていただいた。これはとても分かりやすく、有り難かつたことだと思う。

限られた時間のなかではあつたが、非常に濃密な時間を過ごすことができた。これはひとえに、三菱商事の方々や先生方のお陰だろう。感謝してもしきれないほどだ。

私の人生はまだ数十年残されている。そのなかで、様々な困難に遭遇するだろう。そんなとき、今回学ばせていただいたことが必ず私を導いてくれることと、私は確信している。

(東大オープンキャンパス)

東京大学には何度か足を運んだことはあった。それは、私がまだ東京に住んでいたときの昔の話である。その時はまだ、そのすごさを感じることはできなかった。

今回、初めて私は東京大学オープンキャンパスに参加した。さすがは東京大学。日本のトップ、世界最高峰の大学だけあって、その賑わいは驚くほどだった。様々な制服が入り交じるのはもちろんのこと、大人の方も多く見受けられた。私はその時点で少し怖気づいてしまっていたのかもしれない。

様々な学部の中なかで、私は一日をかけて理学部を見て廻った。何故ならば私は宇宙物理を専攻して研究したいからである。東京大学理学部にはもちろん天文学や宇宙論など宇宙に関することを専攻しているところがある。東京大学のそれはなおさら有名である。私が尊敬する教授は東京大学の名誉教授で、他にも多くの有名な先生方が在籍されている。

午前中は体験講義を二コマ受けた。もちろんどちらも宇宙や物理に関することである。最新の研究やその研究者に触れられたことは、私にとって有意義なことであった。また、それだけでなく私と同じように宇宙に関心をもつ同世代の人とも出会うことができた。これは私を大いに奮い立たせてくれた。いままでそのような人と出会うことはなかったからでもある。

午後になり、私は展示を見て廻ることにした。物理天文専攻の展示ブースでは多種多様な展示があり、とても楽しかった。特にマンツーマンで大学生の方が対応してくださったのが、有り難かった。そこで私は東京大学について直の声も聞くことができた。そして、東京大学だけあって私の知らない知識で溢れていた。展示ひとつひとつが非常に面白く、いつまでも見ていたいほどだった。

展示を廻りながら、私のなかで東京大学の雰囲気が変わった。それまでは敷居が高かった東京大学だが、自然と身近に感じるようになったのだ。これこそが今回の旅の目的だったに違いない、と私は思う。確かに難関ではあることに変わりないものの、それまでは気持ちの面で負けていた。しかし、今は東京大学が思っていたほど遠い気がしない。

あらかた見終わった後、私は最後に数学の体験講義を受けた。そこでの講義も非常に興味深く、難解ではあったものの、新たな分野に楽しみを見つけることができたと感じている。視野を広げて考える、良い機会だったと思う。

最後の講義の後はまだ時間が残っていた。なので私はキャンパス内を散策してみることにした。他の様々な学部でも面白そうな体験などをされていて、興味を引かれたがさすがに時間がなく諦めた。次、来る機会があれば是非とも他の学部にも足を運んでみたい。

歩いていると、大学生の方々が実に様々な役割を果たしていたことに気付いた。案内から記念品販売、勧誘、さらには新聞配りまで。学生の自治会の活動が活発なのだと感じた瞬間だった。

東京大学オープンキャンパスを終えて、私は何を感じ、得ることができたのだろうか。再度それを考え直した。やはり、一番大きいのは東京大学が近づいたことであろう。先入観とは怖いもので、東京大学だからという理由で色々決めつけていたようだ。実際に肌で感じたことで、より東京大学という場所を知ることができたのだ。東大生はただ頭がいいわけではない。それだけでも感じられたことは大きな収穫だと思う。

そして、私が進みたい道がよりはっきりしてきたように思える。近くで聞き、近くで話したことで、より具体的なイメージが頭のなかで形作られたのだ。また、それだけでなく、他の可能性についても見えるようになってきた。いままでひとつにしか視線を向けられていなかったのだが、他の様々な分野を見てきたことで、考えが深まったのだ。

私が大学入試を受けるまでまだ二年以上残されている。しかし、すでに二年しか残されていないのだ。今回を機にこれからについてよりじっくりと考えて、考えて、考えていきたいと思う。